

令和6年度 小川晶保育ゼミ通信 ～後編～

R6.12.19 和光市 保育センター発行

【保育ゼミのテーマ】



小川晶先生と学ぶ

「和光市保育の質のガイドライン」

～子どもの健やかな育ちのために～



和光市保育の質のガイドラインの
掲載 HP はこちらから！

全5回の小川晶保育ゼミが終了しました！

本ガイドラインの監修者である植草学園大学教授の小川晶先生にご講演をいただきながら、全5回にわたり市内教育保育施設の先生方とともにガイドラインの内容や活用方法について学びました。

今回の保育ゼミ通信(後編)には、第3回から第5回で学んだ内容や受講者の感想を掲載しました。本ガイドラインの内容説明や第2回までの内容は「小川晶保育ゼミ(前編)」に掲載していますので、こちらも併せてご覧ください！

check it!!



保育ゼミ通信(前編)の
掲載 HP はこちらから！



全5回の保育ゼミは、小川先生の講義を中心に行いました。ガイドラインに記載されている内容の意図を丁寧にお話していただき、日々の保育を振り返りながら学ぶことができました。

第3回から第5回までの保育ゼミで学んだこと



3歳児～5歳児の保育



子どもの健康支援



食育



保育士等に求められる資質



一人一人に合わせた支援



安全管理



子育て支援

学んだことや実践していること
～全5回の保育ゼミを受講して～



学んだことを日々の保育に
活かしていこう！

©和光市

自園の子どもは2歳児までですが、4、5歳児の発達まで理解することで、焦らずに今の発達を満たす保育をしていけると感じました。また、一人一人に合わせた支援については、子ども理解をしっかりとすることを心がけ、正しい知識をもって適宜相談・共有をしていきたいです。

(しらこ南リトルスター保育園 M先生)

0歳児の保育のお話の中で、特に「“快”と“不快”を一緒に作る」という言葉が印象的でした。自園に戻り、クラス内でも共有し、快は一緒に喜んだり褒めたりし、不快は「嫌だったね」「びっくりしたね」と言葉を添えながら共感することをより丁寧に行うようにしました。

(みなみ保育園 M先生)

子どもの苦手なことばかりに焦点を当てずに、まずは「得意なことから伸ばす」というスタンスでいることにより、それが得意なこと以外にも波及していく、ということが印象的な学びでした。自園でも「何かやらせる」ことよりも、得意なこと、好きなこと、興味のあることややりたいことをできるだけ保障できるよう取り組んでいます。

(にいくら保育園 N先生)

日頃、子どもたちの思いを分かっているつもりであっても、ガイドラインに「子どもの願い・思い」が記載されているので具体的に分かりやすく、また他の職員と話す時も「今の子どもたちは、こんな思いを持っている」と説明がしやすいです。職員も文になっていることで、より理解しやすいという印象があります。

(シリウス☆リトルスター保育園 F先生)

本ガイドライン表紙のイラストは、地面にしっかりと根を張り、時には折れたりすることを経験しながらも、枝葉を伸ばし、花を咲かせ、実をつけるたくましいツルのように子どもたちが育っていくよう、本ガイドラインがリボンとなり周囲の大人が繋ぎながら、子どもたちの成長を支える姿をイメージしています。

子どもが自己肯定感を持ち、健やかに育つための保育が実践できるよう、本ガイドラインを活用していただけたらと思います。(保育センター 研修担当)

保育ゼミ受講後に園内研修を行い、共通理解・実践に努めるようにしてきました。“悩んだ時は人権に立ちかえる”こと。これは保育の基本ですね！小川先生の解説に、たくさんの学びがありました。

(つかさ保育園 和光市和光園

K先生)